

Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／大沼博

伝統医療を取り巻く環境が 大きく変化する今、 東洋医学と西洋医学の融合を

東

洋医学の体系的な教育機関として東洋温灸医学院（現 東京医療専門学校）が創立したのは1926年のこと。以来90年近くにわたり、呉竹学園は鍼灸、あん摩マッサージ指圧、柔道整復の教育に専念してきました。

かつて経験的に伝承されてきた伝統医療に科学的な視点を導入し、体系的な教育システムを構築した実績は高く評価されています。

日本において今日のように東洋医学が一般的になったのは80年代のことです。背景には、欧米を中心に自分の体は自分でケアするという考え方が浸透してきたこと。また、多くの伝統医療においてエビデンス（科学的根拠）が明らかになってきたことがあると考

えています。

例えば慢性疼痛^{とうつう}で悩む患者さんはなかなか完治には至らずさまざま治療を試されますが、満足度を調査すると、西洋医療よりもそれ以外の伝統療法を支持されることがあります。今後、西洋医学との統合はますます進んでいくはずですが、私は医師です。医学教育のなかで鍼灸や漢方を学ぶ講座もありますし、はり師・きゅう師や柔道整復師を交えた勉強会も開かれます。とはいえ、東洋医学に深い理解のある医師はまだ少数。その点、本学園はメディカルクリニックや施術所をもち、東西医療の懸け橋としての役割を担っています。両者の理解を深めることが患者さんのために

なる。それが私のライフワークです。

医療に加え、介護や福祉、健康、スポーツ、美容など、職域が多岐にわたる状況において専門分野に特化した教育も必要です。例えば、団塊の世代が後期高齢者になる10年後を見越して、地域で高齢者の自立生活を支える地域包括ケアシステムという政策があります。区市町村レベルに業務が移管され人材の登用が始まるに当たり、十分な知識と技能を持った専門家を今養成しなければ間に合いません。授業時数が限られるなか、国家資格取得を目指すためのカリキュラムに加え、卒業後、さまざまな道筋につけられるよう教育の仕組みを構築したいと考えています。

私たちがいう基本的臨床能力とは、知識や技能に加え、豊かな人間性やホスピタリティに富んだ態度を含めます。これを養うことが卒前の教育ですが、学びはそこで終わるものではありません。卒業後、多くの患者さんや先輩方に教えるをこいながら成長していく気概をもってほしいと思います。そのためには卒前教育にとどまることなく、卒業後臨床研修制度や、学校と現場が一緒になった生涯教育を充実させていくつもりです。

学校法人呉竹学園
（東京医療専門学校・
呉竹鍼灸柔整専門学校・
呉竹医療専門学校）
理事長

坂本歩



【理事長プロフィール】さかもと・あゆみ●1962年生まれ。東京医科大学卒業。東京医科大学大学院博士課程修了。医学博士。東京医科大学衛生学公衆衛生学講師を経て99年より現職。全日本鍼灸学会参与、東洋療法学校協会副会長、全国柔道整復学校協会会長。

【学園プロフィール】1926年東洋温灸医学院（現 東京医療専門学校）設立。54年東京高等鍼灸学校熱海分校（現 呉竹鍼灸柔整専門学校）設立。2009年呉竹医療専門学校を設立。